

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成 26 年 11 月 13 日 (2014.11.13)

【公表番号】特表 2014-513809 (P2014-513809A)
 【公表日】平成 26 年 6 月 5 日 (2014.6.5)
 【年通号数】公開・登録公報 2014-029
 【出願番号】特願 2013-542633 (P2013-542633)
 【国際特許分類】

G 0 2 B 7/36 (2006.01)

G 0 3 B 13/36 (2006.01)

H 0 4 N 5/232 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 7/11 D

G 0 3 B 3/00 A

H 0 4 N 5/232 H

H 0 4 N 5/232 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 26 年 6 月 9 日 (2014.6.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

画像鮮明度の度量を示すためにフォーカス信号をシーンの画像の複数のエッジから生成する方法において、
 コンピューティングデバイスにおいて、あるエッジを亘る勾配シーケンスにおける非対称の度合いを示す量に基づいて、前記フォーカス信号に対する前記エッジからの寄与を除くまたは抑えるステップ
 を含む方法。

【請求項 2】

前記フォーカス信号に寄与する任意のエッジは、その予定された近傍内の画像データの複数のサンプルから計算された量であるエッジ鮮明度の度量を寄与することを特徴とする請求項 1 に記載された方法。

【請求項 3】

勾配の間の距離と画素のカウントとは長さの単位があり、勾配値の単位はエネルギーの単位割る長さの単位であり、正規化された勾配値は単位がないので、
 任意のエッジの前記エッジ鮮明度の度量の単位は、長さの単位の冪であることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載された方法。

【請求項 4】

勾配の間の距離と画素のカウントとは長さの単位があり、勾配値の単位はエネルギーの単位割る長さの単位であり、正規化された勾配値は単位がないので、
 任意のエッジの前記エッジ鮮明度の度量の単位内は、エネルギーの単位がない、
 ここでは、
 画像データの各サンプルは、エネルギーの単位があり、
 画像データの任意の対のサンプルの間の差割るそれらのサンプルの間の距離は、その単位がエネルギーの単位割る長さの単位である

ことを特徴とする請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 5】

任意のエッジの前記エッジ鮮明度の度量は、前記任意のエッジの事前定義された未分割部分の幅であり、

前記事前定義された部分は、前記任意のエッジの前記複数の画像データのサンプルに対して予め定義された方法で定義された

ことを特徴とする請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載の方法。